

新しい「モノ創り」をめざして

「職人技」+「デジタル技術」の融合で 確かな製品を提供する大田区の町工場

太田技研（大田区仲六郷、太田英樹社長、03・3736・7330）は、①精密機器産業、②通信インフラ設備、③再生可能エネルギー関連といった精密部品の加工を主要業としている。

近年、製造業においても、グローバル化による海外生産かつ製品サイクルの短期化、小型・軽量化が進み、また、納期短縮に伴うパーツオーダーからユニットオーダーへと変化していくお客様のニーズに対し、従来型の「下請け」事業形態から提案力が必要な「自立型」企業への転換が求められている。同社は、「試作品開発」「変種変量製品」への対応に不可欠な先端の「デジタル技術」を磨き、IT・C



太田英樹社長（右）、実弟の和博氏（左）

AD・CAMシステムがつくる二次元加工データをレーザーマシンなどの各種高精度加工機へ出力する生産ネットワークを構築して計画的に設備投資を推進し、着実に技術力の向上を図ってきた。

永年培ってきた職人技と新しいテクニクを融合させた、より付加価値が高く高品質で安定した同社の製品づくりには、お客様からの信頼も厚い。お客様から要求される価値以上の製品、その先にあるエンドユーザーに満足感を与えられる製品づくりが企業理念でもある。「従来型の図面指示通りの『モノ造り』から、お客様のご意見、ご要望を伺い柔軟なアイデアと『モノづくり力』を活かした『モノ創り』企業へと一層進化させていきたい」と太田社長は熱く語る。

二次元データによる「製品立体図」にて、工程の見える化をはじめ、実際に作業工程や品質管理をご覧いただける工場見学や地元の小学生にモノ創りの魅力を伝える社会貢献活動も行っているので、ぜひ一度当社に足をお運びください。



曲げ加工された製品、同社の「モノづくり力」が窺える



レーザーマシン（前）、バンディングマシン（奥）など、充実した同社設備